表３０．あなたが＜中学生から20歳前後ごろ＞まで、あなたの親ごさんはあなたにどのように関わっていたと思いますか、
＜父について＞

表30－１．父は私に何をすべきか・どのようにすべきか、いつも指示していた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	320	6.3%	132	5.8%	188	6.8%
２．ややそう思う	719	14.2%	324	14.2%	395	14.2%
３．どちらとも言えない	983	19.4%	461	20.3%	522	18.8%
４．あまりそう思わない	1,261	24.9%	576	25.3%	685	24.6%
５．そう思わない	1,349	26.7%	580	25.5%	769	27.6%
６．非該当	357	7.1%	161	7.1%	196	7.0%
０．無回答・不明	70	1.4%	42	1.8%	28	1.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－２．父は私の考えや感じていることに耳を傾けて聴いてくれた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	731	14.4%	288	12.7%	443	15.9%
２．ややそう思う	1,121	22.2%	519	22.8%	602	21.6%
３．どちらとも言えない	1,204	23.8%	591	26.0%	613	22.0%
４．あまりそう思わない	851	16.8%	388	17.0%	463	16.6%
５．そう思わない	725	14.3%	287	12.6%	438	15.7%
６．非該当	359	7.1%	162	7.1%	197	7.1%
０．無回答・不明	68	1.3%	41	1.8%	27	1.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－３．父は私の行動に口をはさまないが、いつも気づかってくれていた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	1,025	20.3%	417	18.3%	608	21.8%
２．ややそう思う	1,534	30.3%	709	31.2%	825	29.6%
３．どちらとも言えない	1,001	19.8%	512	22.5%	489	17.6%
４．あまりそう思わない	595	11.8%	248	10.9%	347	12.5%
５．そう思わない	473	9.3%	186	8.2%	287	10.3%
６．非該当	358	7.1%	161	7.1%	197	7.1%
０．無回答・不明	73	1.4%	43	1.9%	30	1.1%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－４．父は私と行動したがり、私のそばにいつもいたがった

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	169	3.3%	47	2.1%	122	4.4%
２．ややそう思う	342	6.8%	129	5.7%	213	7.7%
３．どちらとも言えない	1,024	20.2%	471	20.7%	553	19.9%
４．あまりそう思わない	1,313	26.0%	627	27.5%	686	24.6%
５．そう思わない	1,783	35.2%	801	35.2%	982	35.3%
６．非該当	358	7.1%	161	7.1%	197	7.1%
０．無回答・不明	70	1.4%	40	1.8%	30	1.1%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－５．私は父に「男らしく」あるいは「女らしく」と言われた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	437	8.6%	244	10.7%	193	6.9%
２．ややそう思う	636	12.6%	315	13.8%	321	11.5%
３．どちらとも言えない	934	18.5%	486	21.4%	448	16.1%
４．あまりそう思わない	1,043	20.6%	446	19.6%	597	21.5%
５．そう思わない	1,578	31.2%	580	25.5%	998	35.9%
６．非該当	360	7.1%	162	7.1%	198	7.1%
０．無回答・不明	71	1.4%	43	1.9%	28	1.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－６．私は父に尊重されて育てられた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	1,003	19.8%	398	17.5%	605	21.7%
２．ややそう思う	1,234	24.4%	579	25.4%	655	23.5%
３．どちらとも言えない	1,391	27.5%	682	30.0%	709	25.5%
４．あまりそう思わない	489	9.7%	208	9.1%	281	10.1%
５．そう思わない	507	10.0%	205	9.0%	302	10.9%
６．非該当	360	7.1%	162	7.1%	198	7.1%
０．無回答・不明	75	1.5%	42	1.8%	33	1.2%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

<母について>

表30－7．母は私に何をすべきか・どのようにすべきか、いつも指示していた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	843	16.7%	308	13.5%	535	19.2%
2．ややそう思う	1,546	30.6%	661	29.0%	885	31.8%
3．どちらとも言えない	1,032	20.4%	538	23.6%	494	17.8%
4．あまりそう思わない	839	16.6%	364	16.0%	475	17.1%
5．そう思わない	606	12.0%	300	13.2%	306	11.0%
6．非該当	124	2.5%	59	2.6%	65	2.3%
0．無回答・不明	69	1.4%	46	2.0%	23	0.8%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－8．母は私の考えや感じていることに耳を傾けて聴いてくれた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	1,460	28.9%	554	24.3%	906	32.6%
2．ややそう思う	1,832	36.2%	867	38.1%	965	34.7%
3．どちらとも言えない	920	18.2%	488	21.4%	432	15.5%
4．あまりそう思わない	416	8.2%	170	7.5%	246	8.8%
5．そう思わない	235	4.6%	92	4.0%	143	5.1%
6．非該当	124	2.5%	59	2.6%	65	2.3%
0．無回答・不明	72	1.4%	46	2.0%	26	0.9%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－9．母は私の行動に口をはさまないが、いつも気づかってくれていた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	1,301	25.7%	573	25.2%	728	26.2%
2．ややそう思う	1,696	33.5%	776	34.1%	920	33.1%
3．どちらとも言えない	1,053	20.8%	515	22.6%	538	19.3%
4．あまりそう思わない	509	10.1%	207	9.1%	302	10.9%
5．そう思わない	308	6.1%	101	4.4%	207	7.4%
6．非該当	124	2.5%	59	2.6%	65	2.3%
0．無回答・不明	68	1.3%	45	2.0%	23	0.8%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－10．母は私と行動したがり、私のそばにいつもいたがった

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	305	6.0%	98	4.3%	207	7.4%
2．ややそう思う	707	14.0%	280	12.3%	427	15.3%
3．どちらとも言えない	1,454	28.7%	667	29.3%	787	28.3%
4．あまりそう思わない	1,276	25.2%	574	25.2%	702	25.2%
5．そう思わない	1,117	22.1%	550	24.2%	567	20.4%
6．非該当	125	2.5%	60	2.6%	65	2.3%
0．無回答・不明	75	1.5%	47	2.1%	28	1.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－11．私は母に「男らしく」あるいは「女らしく」と言われた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	543	10.7%	225	9.9%	318	11.4%
2．ややそう思う	901	17.8%	368	16.2%	533	19.2%
3．どちらとも言えない	1,173	23.2%	571	25.1%	602	21.6%
4．あまりそう思わない	1,034	20.4%	462	20.3%	572	20.6%
5．そう思わない	1,210	23.9%	541	23.8%	669	24.0%
6．非該当	125	2.5%	60	2.6%	65	2.3%
0．無回答・不明	73	1.4%	49	2.2%	24	0.9%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表30－12．私は母に尊重されて育てられた

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	1,391	27.5%	600	26.4%	791	28.4%
2．ややそう思う	1,566	31.0%	721	31.7%	845	30.4%
3．どちらとも言えない	1,283	25.4%	624	27.4%	659	23.7%
4．あまりそう思わない	332	6.6%	125	5.5%	207	7.4%
5．そう思わない	285	5.6%	99	4.3%	186	6.7%
6．非該当	125	2.5%	59	2.6%	66	2.4%
0．無回答・不明	77	1.5%	48	2.1%	29	1.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表31．あなたが育ってきたご家庭について、現在どのように感じていますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．満足している	1,891	37.4%	887	39.0%	1,004	36.1%
2．やや満足している	1,550	30.6%	693	30.4%	857	30.8%
3．どちらとも言えない	733	14.5%	353	15.5%	380	13.7%
4．やや不満である	422	8.3%	165	7.2%	257	9.2%
5．不満である	354	7.0%	112	4.9%	242	8.7%
6．非該当	59	1.2%	32	1.4%	27	1.0%
0．無回答・不明	50	1.0%	34	1.5%	16	0.6%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３２．あなたは将来、育ってきたご家庭のような家庭を築いていきたいと思いますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	1,182	23.4%	534	23.5%	648	23.3%
２．ややそう思う	1,245	24.6%	570	25.0%	675	24.3%
３．どちらとも言えない	898	17.8%	428	18.8%	470	16.9%
４．あまりそう思わない	644	12.7%	278	12.2%	366	13.2%
５．そう思わない	956	18.9%	393	17.3%	565	20.3%
９．非該当	80	1.6%	42	1.8%	38	1.4%
０．無回答・不明	52	1.0%	31	1.4%	21	0.8%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３３．あなたは普段お子さん（乳幼児）と過ごしている時どのような気持ちですか。

表３３－１．充実感があって、楽しい

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．いつもそう思う	2,286	45.2%	1,158	50.9%	1,128	40.5%
２．時々そう思う	2,356	46.6%	942	41.4%	1,414	50.8%
３．どちらとも言えない	290	5.7%	124	5.4%	166	6.0%
４．あまりそう思わない	64	1.3%	15	0.7%	49	1.8%
５．そう思わない	9	0.2%	2	0.1%	7	0.3%
０．無回答・不明	54	1.1%	35	1.5%	19	0.7%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３３－２．子どもから安らぎを得られる

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．いつもそう思う	2,507	49.6%	1,221	53.6%	1,286	46.2%
２．時々そう思う	2,228	44.0%	896	39.4%	1,332	47.9%
３．どちらとも言えない	191	3.8%	92	4.0%	99	3.6%
４．あまりそう思わない	75	1.5%	31	1.4%	44	1.6%
５．そう思わない	11	0.2%	1	0.0%	10	0.4%
０．無回答・不明	47	0.9%	35	1.5%	12	0.4%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３３－３．おもしろいことや発見がある

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．いつもそう思う	3,126	61.8%	1,362	59.8%	1,764	63.4%
２．時々そう思う	1,782	35.2%	814	35.8%	968	34.8%
３．どちらとも言えない	77	1.5%	49	2.2%	28	1.0%
４．あまりそう思わない	20	0.4%	9	0.4%	11	0.4%
５．そう思わない	5	0.1%	4	0.2%	1	0.0%
０．無回答・不明	49	1.0%	38	1.7%	11	0.4%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３３－４．大変でどうしたらよいかわからない

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．いつもそう思う	118	2.3%	54	2.4%	64	2.3%
２．時々そう思う	1,537	30.4%	579	25.4%	958	34.4%
３．どちらとも言えない	683	13.5%	327	14.4%	356	12.8%
４．あまりそう思わない	1,609	31.8%	754	33.1%	855	30.7%
５．そう思わない	1,056	20.9%	524	23.0%	532	19.1%
０．無回答・不明	56	1.1%	38	1.7%	18	0.6%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３３－５．わずらわしくて、イライラする

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．いつもそう思う	50	1.0%	17	0.7%	33	1.2%
２．時々そう思う	1,948	38.5%	671	29.5%	1,277	45.9%
３．どちらとも言えない	656	13.0%	305	13.4%	351	12.6%
４．あまりそう思わない	1,263	25.0%	631	27.7%	632	22.7%
５．そう思わない	1,087	21.5%	612	26.9%	475	17.1%
０．無回答・不明	55	1.1%	40	1.8%	15	0.5%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３３－６．子どもといることがいやになる

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．いつもそう思う	34	0.7%	18	0.8%	16	0.6%
２．時々そう思う	641	12.7%	178	7.8%	463	16.6%
３．どちらとも言えない	459	9.1%	176	7.7%	283	10.2%
４．あまりそう思わない	1,178	23.3%	534	23.5%	644	23.1%
５．そう思わない	2,695	53.3%	1,334	58.6%	1,361	48.9%
０．無回答・不明	52	1.0%	36	1.6%	16	0.6%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３４．「仕事」と「育児」について伺います。

表３４－1．現在のあなたにとって、「仕事」と「育児」のバランスはどのようになっていますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．仕事より、育児中心の生活	464	9.2%	77	3.4%	387	13.9%
２．どちらかと言うと、仕事より育児の比重が大きい	582	11.5%	120	5.3%	462	16.6%
３．仕事と育児のバランスがとれている	1,034	20.4%	352	15.5%	682	24.5%
４．どちらかと言うと、育児より仕事の比重が大きい	1,836	36.3%	864	38.0%	972	34.9%
５．育児より、仕事が中心の生活	971	19.2%	780	34.3%	191	6.9%
０．無回答・不明	172	3.4%	83	3.6%	89	3.2%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３４－2．希望としては、どのようにしたいですか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．仕事より、育児中心の生活	753	14.9%	226	9.9%	527	18.9%
２．どちらかと言うと、仕事より育児の比重が大きい	485	9.6%	141	6.2%	344	12.4%
３．仕事と育児のバランスがとれている	2,980	58.9%	1,349	59.3%	1,631	58.6%
４．どちらかと言うと、育児より仕事の比重が大きい	343	6.8%	262	11.5%	81	2.9%
５．育児より、仕事が中心の生活	144	2.8%	118	5.2%	26	0.9%
０．無回答・不明	354	7.0%	180	7.9%	174	6.3%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３５．「仕事のやりがい」と「収入」について伺います。

表３５－１．現在のあなたにとって、「仕事のやりがい」と「収入」のバランスはどのようになっていますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．仕事はやりがいより、収入の多さが優先	448	8.9%	213	9.4%	235	8.4%
２．どちらかと言うと、仕事はやりがいより、収入の多さが優先	814	16.1%	348	15.3%	466	16.7%
３．仕事のやりがいと収入のバランスがとれている	1,648	32.6%	702	30.8%	946	34.0%
４．どちらかと言うと、仕事は収入の多さより、やりがいが優先	1,234	24.4%	611	26.8%	623	22.4%
５．仕事は収入の多さより、やりがいが優先	472	9.3%	236	10.4%	236	8.5%
０．無回答・不明	443	8.8%	166	7.3%	277	10.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３５－2 希望としては、どのようにしたいですか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．仕事はやりがいより、収入の多さが優先	489	9.7%	243	10.7%	246	8.8%
２．どちらかと言うと、仕事はやりがいより、収入の多さが優先	400	7.9%	166	7.3%	234	8.4%
３．仕事のやりがいと収入のバランスがとれている	3,103	61.3%	1,327	58.3%	1,776	63.8%
４．どちらかと言うと、仕事は収入の多さより、やりがいが優先	396	7.8%	198	8.7%	198	7.1%
５．仕事は収入の多さより、やりがいが優先	293	5.8%	164	7.2%	129	4.6%
０．無回答・不明	378	7.5%	178	7.8%	200	7.2%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３６．あなたには、現在の自分をどのように思っていますか。

表36－１．自分がすき

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	948	18.7%	479	21.0%	469	16.9%
２．ややそう思う	1,659	32.8%	685	30.1%	974	35.0%
３．どちらとも言えない	1,591	31.4%	729	32.0%	862	31.0%
４．あまりそう思わない	603	11.9%	246	10.8%	357	12.8%
５．そう思わない	193	3.8%	91	4.0%	102	3.7%
６．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
０．無回答・不明	65	1.3%	46	2.0%	19	0.7%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表36－２．自分には魅力がある

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．そう思う	445	8.8%	268	11.8%	177	6.4%
２．ややそう思う	1,157	22.9%	512	22.5%	645	23.2%
３．どちらとも言えない	2,209	43.7%	999	43.9%	1,210	43.5%
４．あまりそう思わない	878	17.4%	318	14.0%	560	20.1%
５．そう思わない	299	5.9%	128	5.6%	171	6.1%
６．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
０．無回答・不明	71	1.4%	51	2.2%	20	0.7%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表36－3．自分には能力がある

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	457	9.0%	293	12.9%	164	5.9%
2．ややそう思う	1,320	26.1%	677	29.7%	643	23.1%
3．どちらとも言えない	1,980	39.1%	865	38.0%	1,115	40.1%
4．あまりそう思わない	933	18.4%	285	12.5%	648	23.3%
5．そう思わない	303	6.0%	108	4.7%	195	7.0%
6．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
0．無回答・不明	66	1.3%	48	2.1%	18	0.6%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表36－4．自分は平均的である

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	606	12.0%	256	11.2%	350	12.6%
2．ややそう思う	1,515	29.9%	610	26.8%	905	32.5%
3．どちらとも言えない	1,685	33.3%	777	34.1%	908	32.6%
4．あまりそう思わない	858	17.0%	403	17.7%	455	16.3%
5．そう思わない	316	6.2%	178	7.8%	138	5.0%
6．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
0．無回答・不明	79	1.6%	52	2.3%	27	1.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表36－5．自分はとりえのない人間だ

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	198	3.9%	85	3.7%	113	4.1%
2．ややそう思う	571	11.3%	207	9.1%	364	13.1%
3．どちらとも言えない	1,477	29.2%	662	29.1%	815	29.3%
4．あまりそう思わない	1,622	32.1%	689	30.3%	933	33.5%
5．そう思わない	1,114	22.0%	584	25.7%	530	19.0%
6．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
0．無回答・不明	77	1.5%	49	2.2%	28	1.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表36－6．自分は運が悪い

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	280	5.5%	123	5.4%	157	5.6%
2．ややそう思う	559	11.0%	219	9.6%	340	12.2%
3．どちらとも言えない	1,450	28.7%	737	32.4%	713	25.6%
4．あまりそう思わない	1,350	26.7%	567	24.9%	783	28.1%
5．そう思わない	1,350	26.7%	581	25.5%	769	27.6%
6．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
0．無回答・不明	70	1.4%	49	2.2%	21	0.8%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表36－7．自分は親としてよくやっている

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．そう思う	524	10.4%	279	12.3%	245	8.8%
2．ややそう思う	1,699	33.6%	773	34.0%	926	33.3%
3．どちらとも言えない	1,821	36.0%	768	33.7%	1,053	37.8%
4．あまりそう思わない	745	14.7%	307	13.5%	438	15.7%
5．そう思わない	200	4.0%	103	4.5%	97	3.5%
6．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
0．無回答・不明	70	1.4%	46	2.0%	24	0.9%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３７、あなたは、現在のあなたの家庭の経済状態をどのように感じていますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．ゆとりがある	312	6.2%	127	5.6%	185	6.6%
2．ややゆとりがある	848	16.8%	383	16.8%	465	16.7%
3．普通	1,899	37.5%	873	38.4%	1,026	36.9%
4．やや苦しい	1,283	25.4%	576	25.3%	707	25.4%
5．.苦しい	659	13.0%	274	12.0%	385	13.8%
0．無回答・不明	58	1.1%	43	1.9%	15	0.5%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３８．あなたは、現在のあなたの心の状態について、どのように感じていますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
1．ゆとりがある	281	5.6%	145	6.4%	136	4.9%
2．ややゆとりがある	788	15.6%	355	15.6%	433	15.6%
3．普通	1,754	34.7%	892	39.2%	862	31.0%
4．ややゆとりがない	1,555	30.7%	604	26.5%	951	34.2%
5．ゆとりがない	630	12.5%	240	10.5%	390	14.0%
0．無回答・不明	51	1.0%	40	1.8%	11	0.4%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表３９．あなたは現在の生活について、どのように感じていますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．満足している	858	17.0%	436	19.2%	422	15.2%
２．やや満足している	1,937	38.3%	892	39.2%	1,045	37.5%
３．どちらとも言えない	956	18.9%	409	18.0%	547	19.7%
４．やや不満である	884	17.5%	350	15.4%	534	19.2%
５．不満である	374	7.4%	149	6.5%	225	8.1%
０．無回答・不明	50	1.0%	40	1.8%	10	0.4%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４０．あなたは自分の性（男性は男であること、女性は女であること）をどのように思いますか。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．自分の性で、よかったと思う	2,836	56.1%	1,443	63.4%	1,393	50.1%
２．自分の性で、どちらかというとよかったと思う	972	19.2%	356	15.6%	616	22.1%
３．どちらとも言えない	985	19.5%	410	18.0%	575	20.7%
４．自分の性で、どちらかというとよかったと思わない	133	2.6%	13	0.6%	120	4.3%
５．自分の性で、よかったと思わない	77	1.5%	12	0.5%	65	2.3%
０．無回答・不明	56	1.1%	42	1.8%	14	0.5%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４１－1．男である・女であることを<よかったと思う場合>

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．家庭の中で優遇される	582	11.5%	319	14.0%	263	9.5%
２．教育の場で優遇される	155	3.1%	82	3.6%	73	2.6%
３．社会（しきたりや慣習）で優遇される	482	9.5%	347	15.2%	135	4.9%
４．雇用や職場において優遇される	601	11.9%	447	19.6%	154	5.5%
５．能力が優れている	255	5.0%	176	7.7%	79	2.8%
６．体力・パワーがある	1,200	23.7%	988	43.4%	212	7.6%
７．行動力がある	840	16.6%	580	25.5%	260	9.3%
８．養う力がある	513	10.1%	432	19.0%	81	2.9%
９．差別される立場や弱者の視点で考えられる	638	12.6%	169	7.4%	469	16.9%
10．家族から期待をかけられる	587	11.6%	399	17.5%	188	6.8%
11．<男らしさ>または<女らしさ>を備えている	488	9.6%	258	11.3%	230	8.3%
12．（女は）妊娠・出産できる	1,859	36.7%	20	0.9%	1,839	66.1%
13．（男は）妊娠・出産しない	327	6.5%	297	13.0%	30	1.1%
14．理屈抜きによい	1,262	24.9%	643	28.3%	619	22.2%
15．その他	253	5.0%	91	4.0%	162	5.8%
ＭＡ回答数合計	10,042	198.5%	5,248	230.6%	4,794	172.3%
無回答・不明	492	9.7%	355	15.6%	137	4.9%
ＭＡ回答者数合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４１－2．男である・女であることを<いやだと思う場合>

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．家庭の中で差別される	536	10.6%	64	2.8%	472	17.0%
２．教育の場で差別される	202	4.0%	33	1.4%	169	6.1%
３．社会（しきたりや慣習）で差別される	1,055	20.9%	126	5.5%	929	33.4%
４．雇用や職場において差別される	1,003	19.8%	67	2.9%	936	33.6%
５．能力がない	184	3.6%	47	2.1%	137	4.9%
６．体力・パワーがない	625	12.4%	50	2.2%	575	20.7%
７．行動力がない	238	4.7%	47	2.1%	191	6.9%
８．養う力がない	580	11.5%	57	2.5%	523	18.8%
９．同性の考え方や行動パターンがいやに思う	843	16.7%	168	7.4%	675	24.3%
10．家族の期待に応えなくてはならない	592	11.7%	347	15.2%	245	8.8%
11．<男らしさ>または<女らしさ>を要求される	585	11.6%	166	7.3%	419	15.1%
12．（女は）妊娠・出産できるから	129	2.5%	19	0.8%	110	4.0%
13．（男は）妊娠・出産しない	163	3.2%	66	2.9%	97	3.5%
14．理屈抜きにいやだ	133	2.6%	79	3.5%	54	1.9%
15．その他	212	4.2%	96	4.2%	116	4.2%
ＭＡ回答数合計	7,080	139.9%	1,432	62.9%	5,648	202.9%
無回答・不明	1,706	33.7%	1,377	60.5%	329	11.8%
ＭＡ回答者数合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２．子育てをしていて、あったらよいと思う支援、あるいは配慮して欲しかったことなどはどのようなことですか。

Ａ．サービスについて

表４２－１Ａ．シッターの派遣（親の公的・私的な都合で子どもの世話ができない時）

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	314	6.2%	129	5.7%	185	6.6%
２．今後利用したい	2,640	52.2%	1,038	45.6%	1,602	57.6%
３．必要ない	1,676	33.1%	873	38.4%	803	28.9%
０．無回答・不明	429	8.5%	236	10.4%	193	6.9%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－２Ａ．育児のヘルパー派遣（一緒に世話をしたり、アドバイスしてくれる）

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	65	1.3%	33	1.4%	32	1.1%
２．今後利用したい	2,143	42.4%	865	38.0%	1,278	45.9%
３．必要ない	2,334	46.1%	1,102	48.4%	1,232	44.3%
０．無回答・不明	517	10.2%	276	12.1%	241	8.7%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－３Ａ．保育園への送り迎えサービス

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	119	2.4%	52	2.3%	67	2.4%
２．今後利用したい	2,619	51.8%	1,127	49.5%	1,492	53.6%
３．必要ない	1,887	37.3%	853	37.5%	1,034	37.2%
０．無回答・不明	434	8.6%	244	10.7%	190	6.8%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－４Ａ．家事をしてくれるヘルパーの派遣

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	60	1.2%	25	1.1%	35	1.3%
２．今後利用したい	1,693	33.5%	606	26.6%	1,087	39.1%
３．必要ない	2,841	56.2%	1,392	61.2%	1,449	52.1%
０．無回答・不明	465	9.2%	253	11.1%	212	7.6%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－５Ａ．子育てに関する相談などの事業

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	206	4.1%	46	2.0%	160	5.7%
２．今後利用したい	3,022	59.7%	1,296	56.9%	1,726	62.0%
３．必要ない	1,345	26.6%	683	30.0%	662	23.8%
０．無回答・不明	486	9.6%	251	11.0%	235	8.4%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－６Ａ．子育てに限らない、仕事や家族の相談など親個人への精神的サポート

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	52	1.0%	10	0.4%	42	1.5%
２．今後利用したい	2,607	51.5%	973	42.8%	1,634	58.7%
３．必要ない	1,920	38.0%	1,045	45.9%	875	31.4%
０．無回答・不明	480	9.5%	248	10.9%	232	8.3%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－７Ａ．土曜・日曜に利用できる行政窓口や各種サービス

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	278	5.5%	135	5.9%	143	5.1%
２．今後利用したい	3,908	77.2%	1,666	73.2%	2,242	80.6%
３．必要ない	477	9.4%	246	10.8%	231	8.3%
０．無回答・不明	396	7.8%	229	10.1%	167	6.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－８Ａ．家庭の事情に配慮した、地域組織の運営（役員や当番など）

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．すでに利用した	104	2.1%	53	2.3%	51	1.8%
２．今後利用したい	2,868	56.7%	1,193	52.4%	1,675	60.2%
３．必要ない	1,470	29.1%	722	31.7%	748	26.9%
０．無回答・不明	617	12.2%	308	13.5%	309	11.1%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

B．料金

表４２－１Ｂ．シッターの派遣（親の公約・私的な都合で子どもの世話ができない時）

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	1,004	19.8%	496	21.8%	508	18.3%
２．ある程度の負担はしてもよい	2,710	53.6%	1,061	46.6%	1,649	59.3%
０．無回答・不明	1,345	26.6%	719	31.6%	626	22.5%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－２Ｂ．育児のヘルパー派遣（一緒に世話をしたり、アドバイスしてくれる）

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	1,488	29.4%	592	26.0%	896	32.2%
２．ある程度の負担はしてもよい	1,690	33.4%	749	32.9%	941	33.8%
０．無回答・不明	1,881	37.2%	935	41.1%	946	34.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－３Ｂ．保育園への送り迎えサービス

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	1,757	34.7%	868	38.1%	889	31.9%
２．ある程度の負担はしてもよい	1,703	33.7%	645	28.3%	1,058	38.0%
０．無回答・不明	1,599	31.6%	763	33.5%	836	30.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－４Ｂ．家事をしてくれるヘルパーの派遣

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	834	16.5%	408	17.9%	426	15.3%
２．ある程度の負担はしてもよい	2,059	40.7%	803	35.3%	1,256	45.1%
０．無回答・不明	2,166	42.8%	1,065	46.8%	1,101	39.6%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－５Ｂ．子育てに関する相談などの事業

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	3,168	62.6%	1,285	56.5%	1,883	67.7%
２．ある程度の負担はしてもよい	442	8.7%	262	11.5%	180	6.5%
０．無回答・不明	1,449	28.6%	729	32.0%	720	25.9%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－６Ｂ．子育てに限らない、仕事や家族の相談など親個人への精神的サポート

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	2,738	54.1%	1,036	45.5%	1,702	61.2%
２．ある程度の負担はしてもよい	568	11.2%	308	13.5%	260	9.3%
０．無回答・不明	1,753	34.7%	932	40.9%	821	29.5%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－７Ｂ．土曜・日曜に利用できる行政窓口や各種サービス

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
２．ある程度の負担はしてもよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
０．無回答・不明	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４２－８Ｂ．家庭の事情に配慮した、地域組織の運営（役員や当番など）

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．無料がよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
２．ある程度の負担はしてもよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
０．無回答・不明	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

表４３．最後にこのアンケートの内容に関するご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

	合計	割合	男性	割合	女性	割合
１．意見有り	895	17.5%	333	14.7%	562	19.8%
０．無回答・不明	4,164	82.5%	1,943	85.3%	2,221	80.2%
合計	5,059	100.0%	2,276	100.0%	2,783	100.0%

C-4 結婚・出産・育児の感情浮沈図調査

-専業主婦の育児危機と対処法-

目　的

本研究は、女性が結婚、出産してから現在に至るまでの様々な出来事を「感情浮沈図記録」を用いて明らかにし、そこから導き出された育児中の母親の満足感、困難感の要因を析出することによって、少子時代の子育て支援策のあり方を検討するために実施した。

本研究で「結婚・出産・育児の感情浮沈図記録」を用いることの意義は、次のとおりである。「いかなる人も、その中で生起する出来事は、彼女自身及び彼女の家族や、彼女の友人、親戚など当該集団構成員の記憶の中に意味づけされる。結婚、出産、育児の記憶をたどれば、その出来事をめぐって生じたさまざまな喜びや悩みが思い出される。そして、その喜びの共有や悩みを克服するために、なんらかの対処が彼女らによって展開されたはずである。さらにこのような一連の活動は、彼女らのその後の人生、生活になんらかの影響を及ぼしてきた」からである。

方　法

I 県内の母親(長子が小学校以上で乳幼児の子育てを終了した者) 6名を対象に、聞き取り調査を実施した。調査時間は、一人あたり約90分、調査員は2名で実施した。

使用した調査項目は、Reuben Hill[1]の研究からヒントを得て 1983 年に島内が開発したものをもとに、今回の母親用に改定したものである。調査の内容は、

A．社会的特性

B．結婚・出産・育児の感情浮沈図記録

C．結婚・出産・育児の感情浮沈の内容

である。

インタビュー調査の主な内容は、不調な出来事と順調な出来事別に、1. 時期と内容、2. 困難性と良好性、3. 原因の認知（当時と現在）、4. 対処の方法、5. 影響などである。

調査は、結婚・出産・育児の感情浮沈図記録票（説明用）を用いて、調査員が浮沈図の説明をし、その後、対象者自身が感情浮沈図を記入した。記入された感情浮沈図に基づいて、その山（順調）と谷（不調）の内容について調査者が質問し、記録した。

なお、本調査を補完するためにＳ県の子育てネットワーク役員を対象にグループインタビューを実施した。

結　果

《ケース 1》

☆社会的特性：35 歳、結婚 9 年目。核家族、自営業の夫と子どもは2人（小学校1年生の長女、年長の長男)。結婚前、非常勤で働いた経験がある。

☆結婚・出産・育児の感情浮沈図：**図 1**

☆最も不調だった出来事：<u>近隣の母親同士の人間関係</u>

(1) 時期と内容

長女を出産し、育児を始めた頃から、第2子の長男を出産する頃まで。同じ子育て中の母親が多い住宅地だったため、人間関係が難しかった。

(2) 困難性

表面上は仲良くしているが、感情の行き違いがあると仲間はずれにされる。同一行動を要求されるように感じていた。

(3) 原因の認知

自分が抜けたいという気持ちが、ストレスとなっていた。グループ行動の頻度が高いと苦痛になる。

(4) 対処の仕方

同じ町内なので、つかず離れずの関係になるよう距離を持てばいいと気づいた。自然と消極的に行動した。

夫に相談もしたが、夫の反応は鈍く、引っ越したいと考えたこともあった。友人に相談する

と子どもがたくさんいる地域は「うらやましい」といわれた。

(5)影響

たくさんの母親がいるので、気の合う人もいることがわかった。子どもにとっては、同級生も多くいい環境だと思っている。同世代で、同じ母親なのでちょっと子どもをみてもらうこともできることがわかった。

気の合わない人とは、1対1にならないように気をつければいいことを学んだ。

☆最も順調だった出来事：第2子の出産による環境の変化と自分自身の変化

(1)時期と内容

2番目の長男を出産し、産後すぐ実家に帰っていた1ヶ月間。環境が変わったことで、冷静に物事を見られるようになった。

(2)特にうれしかった点（良好性）

下の子は1時間睡眠で、手がかかり、身体的にはきつかった。しかし、見方の変化がゆとりを生み出した。

(3)原因の認知

特別なことはないが、環境の変化が生み出したことだと考えている。

(4)対処の仕方

下の子の授乳時間は上の子の絵本タイムとして関わった。2番目の出産は、積極的な育児仲間をつくることができた。

(5)影響

積極的に行動すれば、気の合う仲間を作ることができる。子ども同士は遊ばなくても親同士は付き合いが続いている。精神的に強くなった。メリット・デメリットを区分して考えることを学んだ。

夫は相談しても「のれんに腕押し」という感じであったが、子どもがなつけばかわいくなるということが見えるようになった。

☆その他：専門家は義務的な返事しか返ってこない。

《ケース2》

☆社会的特性：32歳、結婚7年目。営業職の夫と2人の子ども（長女6歳、長男4歳）の核家族。保母として3年半の勤務経験あり。

☆結婚・出産・育児の感情浮沈図：**図2**

☆最も不調だった出来事：友人や知り合いがひとりもいなかった

(1)時期と内容

結婚して1年目、第1子出産前後の数ヶ月間。九州で育ち近畿地方で勤務、結婚後現在地に転居したので、知り合いや友人が全くいなかった。育児ノイローゼに近い状況だった。

(2)困難性

出産前は、子どももいないし、同世代の母親に声をかけることもできなかった。知り合いも友人もいなくて、話を聞いてくれる人がいない。夫は仕事で帰宅が遅い。

子どもはなかなか寝ず、泣くことも多く、「こんなはずではなかった」と途方に暮れた。「なんで泣くの」と子どもと泣いていた。

(3)原因の認知（当時と現在）

朝、「いってらっしゃい」と夫を送り出してから、「お帰りなさい」まで子どもと1対1で過ごしたことは、新しい土地にきたからである。また、家族からも遠く、夫の理解が不十分であった。

(4)対処の仕方

夫に話し、相談するが理解してもらえなかった。毎日、実家へ電話していた。

「2時間おきに授乳、抱っこしてのあやすなどしていた。この生活がいつまで続くのか」と思っていたとき、新生児訪問の機会を得た。よその家庭も同様（泣く子どもが多い）であることがわかった。電話番号を教えてくれた。大変嬉しかったが、世代の違い（高齢の人）で電話はしなかった。

(5)影響

保母は子育てが上手だと思われているが、「人の子と自分の子は違う」と思った。

子どもの成長と時間が支えてくれた。この時始めた育児日記を、今でも家族日記として続けている。

近所は、同居世帯が多く、「祖母が育児、嫁は仕事、嫁が育児をするのはおかしい」という考え方がある。自分で子育てができることはすばらしい。核家族だからできた。同居のメリット、核家族のメリットがある。

☆最も順調だった出来事：育児を振り返るゆとりができたこと

(1)時期と内容

第2子出産以降

(2)特にうれしかった点（良好性）

目に見える子どもの成長。楽しみである。

(3)原因の認知（当時と現在）

二人目のゆとりと育児日記をつけたこと。成長がよくわかる。

(4)対処の仕方

子どもを通しての友人ができた。子どもの同級生の母親同士で話すメリットを生かした。

(5)影響

子育ての理想と現実のギャップがわかった。育児ノイローゼもこの辺が原因だと思った。

夫とのコミュニケーションが一番だが、母親同士のつながりがあれば（グチれる人がいれば）かなり解消する。新生児訪問の時など、育児サークルを紹介してくれるといいと思う。

子どもをみるチャンスが少ない人が母親になっている。子どもへの対応（扱い）ができない人が増えている。県外から引っ越してきた人には、育児サークルはとてもいい資源だということを学んだ。

《ケース3》

☆社会的特性：32歳、結婚して10年。勤め人の夫とその両親、長女（小2）、長男（小1）、次女（年中）の3世代同居。幼稚園教諭として4年間の勤務経験がある。

☆結婚・出産・育児の感情浮沈図：**図3**

☆最も不調だった出来事：育児疲れで暗い毎日

(1)時期と内容

結婚して1年目、第1子出産から第2子出産後までの2年間程度。第1子は、夜泣きが多く、手がかかった。体が大きく、座椅子で抱っこすることが多く、腰を痛めた。第2子のつわりもひどく、流早産しそうになった。

(2)困難性

夫の両親とは別居。自分の母親も、夫の母親も働いていて忙しく、この時は家族3人の生活で、「昼間は子どもと2人だけの生活で、暗い日々」をおくっていた。

(3)原因の認知（当時と現在）

夫は仕事が忙しく、育児疲れに理解をしめしてくれるが、帰りが遅く、協力は少ない。

夜泣きで手がかかり、援助者がいないので、疲れていたため。

(4)対処の仕方

実家の母親に相談し、手伝いを頼んだ。高校や短大時代の友人に相談する事で、精神的に支えてもらった。職場の元上司で、親しい人がいたので相談にのってもらった。似たような境遇だったので、よく理解してくれた。

「いつかは楽になる日がくると信じて」自分ひとりで育ててきた。

(5)影響

近所の人はいい人たちだったが、同年齢の子どもはいなかったので、あまり相談できなかった。近所の公園へ行くようになって、同年齢の母親同士で、お互いに助け合っていける友人ができた。誰も頼る人はいないので、熱が出ても、つわりでも育児をしてきた。自分ひとりで育ててきたので、根性がついた。予測していないことが多かったが、いい経験をしたと思っている。

行政サービスは知っていた。利用すればよかったが、意地になっていた。

3年前、第3子出産を機会に、夫の両親と同居することになり、子どもの面倒をみる約束をした。

☆最も順調だった出来事：心にゆとりができ、

子育てサポーターになったこと

(1)時期と内容

第2子が入園したころから、精神的な面や育児面でゆとりがでてきた。第3子の成長で、時間にもゆとりができた。空いている時間は子どもに接していたいと思っているので、子育てサポーターをするようになってから現在まで。

(2)特にうれしかった点（良好性）

第3子の友人の母親がサポーターをしているので、活動内容は知っていた。

幼稚園教諭の再就職の話もあったが、サポーターは午前中だけでなので、時間的にも丁度良い。いろいろな子どもたちに出会え、接することができ、学びも多く楽しい。

(3)原因の認知（当時と現在）

精神的なゆとり、育児面での実質的なゆとりと子どもが好きであること。

(4)対処の仕方

夫の両親と同居することにした。母親は協力的で、子育てだけでなくサポーターの活動にも理解を示してくれた。サポーターになってから家族全体が協力的で、夫もよく手伝ってくれるようになった。「新しい発見」だと感じている。

(5)影響

いろいろな子どもたちに出会える。子どもをみていると、その家の様子がよくわかる。

自分の子どもと照らし合わせて、子どもをみると学ぶことがたくさんあることがわかった。虐待や毎日のイライラなどの育児ノイローゼから脱するには、話をできる人の存在が重要であることがわかった。

また、保健婦と一緒になってサポーターができたら良いと考えている。

《ケース4》

☆社会的特性：37歳、結婚13年目、長女・次女

☆結婚・出産・育児の感情浮沈図：**図4**

☆最も不調だった出来事：体調不良（つわり）と姑の干渉

(1)時期と内容

第1子が2歳の時。つわりがひどく家に閉じこもりがち。第2子出産後、家事と育児で多忙。第2子が喘息、姑に干渉された3年間。結婚してから3年目の時。

(2)困難性

①つらくとも第1子の面倒を見なければならない。②身体的苦痛（第2子の夜泣きが続き睡眠不足）。③ストレス（周囲から取り残されているというあせり、夫は出張や帰宅が遅く、子どもの世話が大変で話し相手がいない）

(3)原因の認知（当時と現在）

当時は、①男女平等なのに女性のみが犠牲になっている。②核家族だから仕方がない。③毎日子どもと過ごすことは大変だ、と思っていた。

現在は、①今にして思えば大したことではない。②子どもに当ったことを反省している。

(4)対処の仕方

①同じマンションの子育て中の友人と子どものことや夫のことを話し合った。②実家に1ヶ月半くらい子どもを連れて里帰りした。③夫は理解してくれているが仕事が忙しい（土、日も接待など）。

(5)影響

自分自身は、(育児が)大変ということは一時で、過ぎてしまえば子どもにとって大切な時期である。幼稚園に入れば子どもは離れていくということを学んだ。

夫が休日に在宅するようになった。

☆最も順調だった出来事：妊娠した時

(1)時期と内容

結婚して2年目の妊娠。

(2)特にうれしかった点（良効性）

周囲の人々から祝福された。

(3)原因の認知（当時と現在）

早く子どもが欲しいとは思っていなかったが、両方の両親が喜んでくれたこと。

(4)対処の仕方

初めての妊娠時は気がつかないうちに切迫流

産したので、絶対安静にした。夫が病院を紹介してくれた。

(5)影響

子どもを産むことは大変なことである。夫は家事を手伝わないと回らないということを認識し、家事（洗濯、アイロンかけ）を手伝ってくれた。

☆その他：長子が幼稚園に入園する頃になって時間的余裕が出来るようになった。保護者会の役員を引き受け、友人も出来、役員の仕事もやりがいがあった。

夫の給料が高いので、保育料も高い。

最近の母親は、サービスやボランティアを受けても当たり前という意識だ。自分の時間を大切するのはよいが、自己中心的で子どもをアクセサリーのように考えている。紙おむつを平気でごみ箱に捨てる。自分なら自宅に持って帰る。

《ケース 5》

☆社会的特性：38 歳、結婚 11 年目、長男・長女。

☆結婚・出産・育児の感情浮沈図：**図 5**

☆最も不調だった出来事：幼稚園の母親間の人間関係

(1)時期と内容

結婚して 5 年目、幼稚園の親との子どもがらみの人間関係。

(2)困難性

子どもが集団に入れるかどうか不安。親の人間関係を、子どもへどう説明したらよいか悩んだ。

幼稚園は帰宅が早いので、友人宅へ遊びに行く。その時、おやつを持参させるとか、行儀とか、お誕生会で誰を招待するか、と悩んだ。

その親は、気に入った友達だけ、幼稚園から直接車に乗せて連れて行った。自分の子どもを含めて、連れて行かれない子どもはかわいそう。どうして周りのことを考えないのか、自分の子どもは嫌われているのかと悩んだ。

(3)原因の認知（当時と現在）

当時は、なんであのようになるのか不思議だった。学生のまま、親になったようだと思った。現在は、母親の両親も若くなっているので、やさしさや思いやりの少ない親が多くなっているのかもしれない。結婚してしばらくしてからの子どもだったので、自分の子どもがかわいかったのだろう。その親から、「体が大きいのにやさしいのね」と子どものことを言われたことがあったので、外見で判断したのだろう。

(4)対処の仕方

子育て仲間との情報交換・おしゃべりをしてストレスを解消した。

夫に助言を求めたら、話しをよく聴いてくれて「俺が言ってやる」と言われたが断った。長老の意見を聞くために、両親にも話したら、「長い人生では、大したことではない」といわれた。

幼稚園の先生に相談したらクラスを別にしてくれた。

(5)影響

その母親は、自分の子どもをよく見ているのだと思う。ルーズや意地悪な母親ではなく、自分の子どもがかわいくて仕方がなかったのだろう。子どもの喧嘩に親が出るべきではない。

☆最も順調だった出来事：妊娠、子育て

(1)時期と内容

結婚して 4 年目、第 1 子から 2 子までの妊娠、子育て。

(2)特にうれしかった点（良好性）

公園仲間に注目されたり、初対面の人から話しかけられた。女の幸せを実感した。

(3)原因の認知（当時と現在）

結婚したら子どもを生みたかったので、充実感があった。兄弟がいなかったので、いつも大人に囲まれていた。なんでも買ってもらえるので、一人は楽しいと思っていた。しかし、一方で兄弟のいる人は相談ができるのでうらやましく思っていた。

(4)対処の仕方

母親は、子どもをたくさん作りなさい、3 人

生んでも経済的に援助すると言ってくれた。
（母親は兄弟が多いので親に頼れなかった）
(5)影響
夫も子どもが好きであたたかい人。2 人目からおむつを替えてくれるようになった。子どもだけを育てる権利があれば、育てたい。
女同士の人間関係の難しさを学んだ。
両親から得た人間、自然に対するやさしさや思いやりを子どもに伝えたい。夫も他の子どもを誉めたり叱ったり、公平な人。
☆その他：かかりつけの小児科医、保健婦によくしてもらった。
健診の手伝いをしていると、きちんとした母親と、まめでない母親やだらしない母親など、親からの躾の差がみえる。
娘には仕事を続けなさいと言うだろう。1 年間休めたら仕事を続けたかもしれないが、2 歳位までは自分で見たい。
自分の考え、趣味を持っていれば夫と対等になれる。

《ケース 6》

☆社会的特性：38 歳、結婚 15 年目、長女･長男・次男
☆結婚・出産・育児の感情浮沈図：**図 6**
☆最も不調だった出来事：子どもの病気
(1)時期と内容
①結婚 7、8 年目、第 3 子が学校健診で心疾患と診断された時の 1 ヶ月位。
②結婚して 3 年目、第 2 子が先天性眼瞼下垂と診断されたとき。2、3 年。
(2)困難性
①男の子で喜んでいただけに心配だった。
②子どもの自画像を描かせると瞼が垂れているように書くので気にかけた。夫は妹の夫に「信じたくない」と言ったらしい。夫の帰宅が遅いので一人で考え込んでしまった。自分の辛い気持ちをわかってほしかった。
(3)原因の認知（当時と現在）
①重い病気と思った。
②先天性なので治らないのかと考え込んだ。
(4)対処の仕方
①医師に胆道閉塞と比べればまだよいと言われ、気持ちを切り替えた。再検査結果で異常なしと言われた。
②保健所の 1 歳半健診を受診した時、大学病院への紹介状を書いてくれた。妹の夫が眼科医をしているので相談し、形成外科で手術すれば治ると言われた。よく母に相談した。
(5)影響
第 1 子は 3 子へ心を遣ってくれる。
☆最も順調だった出来事：第 3 子出産と心のゆとり
(1)時期と内容
結婚して 7 年目、第 3 子が産まれた時は、心にゆとりができ、育児が楽しく、家庭内が明るくなった。
(2)特にうれしかった点（良好性）
この子がいるだけで家が明るくなった。
(3)原因の認知（当時と現在）
気持ちのゆとりがあったから。第 1 子の時は、一生懸命になり過ぎて大変だった。買い物にも行けなかった。第 2 子の時は、こんなものかなと思っていた。第 3 子は親の顔を見ている。
(4)対処の仕方
第 2 子が、間に挟まって甘えさせていないので、時々抱いてあげる。
(5)影響
一時、第 1 子に辛く当った時もあったが、初潮が始まって手伝いや話しをするようになった。感謝、感動など表現力の豊かな母親の生き方を子どもにも伝えたい。
☆その他：保健婦さんは、マニュアルどおりで決め付ける。医師はやさしい。
最近の母親は、ケジメがない。よいことと悪いことをきちんと躾られていない。
母がボランティアをすでにしていたので、自分も参加した。
仕事は続けたかったが、両親とも働いていた

ので退職した。

《全体のまとめ》

1.不調な出来事とその対応について

不調な出来事としては「出産・育児の相談相手の不在」、「育児仲間や他の母親間の人間関係」、「育児疲れと体調不良」、「子どもの病気」であった。これらへの対処の仕方は、そのほとんどが実家の母親や友人(近隣または学生時代)に相談し、気持ちを切り替えることでその不調な出来事を克服していた。また、育児による自分の成長を意識し、子育て中の身近な友人等のサポートの必要性と重要性を学んでいた。

2.順調な出来事とその対応について

順調な出来事は、出産、子育てによる充実感と育児にゆとりができた時で、その対処としては、家族の一体感(育児への理解と協力)、子育てを通じた友人の獲得が多く、子育ての感動、夫などの家族や身近な人々のサポートの重要性を学んでいた。

3.その他

身近な人々(素人)のサポートとあわせて、公的サービスや専門家によるサポートのあり方も指摘された。新生児訪問時の母親への情報提供のあり方、マニュアル的な指導や世代差などが提起されていた。

考　察

「結婚・出産・育児の浮沈図記録」を用いて、女性が結婚、出産してから現在に至るまでの様々な出来事から導き出された育児中の母親の満足感、困難感の要因を析出することによって、今後の子育て支援策の理想的なあり方を検討した。

結婚から育児期までのライフイベントの内容とその対処法、影響について、家族、地域、そして行政の3つの分析視角から検討してみよう。

1.家族対処をめぐる課題

家族危機は周期によって訪れることは、よく知られている[1)]。今回の調査では、結婚から育児期までの周期を調査したものである。不調の出来事は、「出産・育児の相談相手の不在」、「育児仲間や他の母親間の人間関係」、「育児疲れと体調不良」、「子どもの病気」などであった。その対処法は、実家の母親や友人へ相談することによって乗り切っていたが、重要な相談相手として夫をあげた者は少なく、むしろ「犠牲感」や「孤立感」を抱きながら、かろうじて対処している姿が浮かんでくる。こうした不調への対処経験は、子どもの成長に伴い、やがて子育ての自信、身近な友人によるサポートの必要性、人間関係の学び等、危機対処の自信が自己成長へとつながっていく。即ち、母親にとって出産・育児に関する出来事は、時間の経過とともに順調への要因であったり、不調への要因になるといった二面性を持っている。

一方、子育て中の夫は、家庭をサブシステムとしてとらえ、残業、接待、休日出勤といった従来的な職場中心の姿が浮かんでくる。彼らは、家事・育児の大変さを、妻からの訴えで事の重大さに気づき、何らかの役割行動をとるか、さもなくば仕事と家庭の間で葛藤するしかしかないともいえる。夫の家事・育児参加の度合いによって、妻の不調が軽減されることが、本調査でも明かになた。そのためには、少なくとも夫の育児休暇を含め、残業の軽減等、職場への啓発活動をより細かに推進する必要がある。

夫の役割を代替・補完しているのが実母である。里帰りや電話による相談など、情緒的安定に果たす実母の存在が大きい。海外赴任者並に里帰り、呼び寄せ手当ての支給などの検討は不可能であろうか。

2.地域

1)育児グループの意義と課題

自分の母親だけでなく、身近な育児経験者の支援の有効性が認められた。平成9年度の本研究班の研究でも、二人に一人は育児の情報源として友人、家族をあげ[2)]、別の報告でも、一番信頼する育児・教育情報源として約7割が「近

所の友人・知人」をあげている[3]。出産・育児における当事者集団である、いわゆる育児グループとの関わりが重要である。育児という共通の条件は、体験を分かち合い、相互に学び合えるという利点がある。

一方、育児グループは利点だけではない。当事者同士の関係は、わが子を優先する余り人間関係の葛藤を生んだり、頻回なグループ行事は、逆に負担感を与える。これは、育児グループの運営上の問題である。グループの目的のほか、具体的な活動と役割、決め方のルールなど、支援者側も相談窓口を設けるなどの活動支援体制を用意する必要があろう。

2)育児グループのネットワーク化

育児グループの規模は、数人規模から100人以上の規模まで大小さまざまであり、育児期が終われば自然消滅したり、逆にS県K市のように、子育てを支援する側に変化・発展するという特色がみられる[4]。

表1 ネットワークの意義

①子育てグループの情報の限界：マスメディアは遠すぎる(情報交換のノウハウの獲得)
②母親同士の、子育ての出会いの場をつくる③身近な情報と広域の情報の両方が必要
④市町村の子育て環境の違いがよくわかる
⑤子育て中の母親がメンバーにいるサークル運営がよい。
⑥みんなの子育て、共感する心が大切
⑦市町村では、一般の母親の担当セクションはない。

育児グループの次の課題は、グループ内情報の客観性や活性化のためのネットワーク化の必要性である。**表1**は、S県の育児グループのネットワークを組織した動機などについて役員から聴取したものである。このネットワークのリーダーシップを発揮している役員は、育児から手が離れつつある母親が多く、自分の経験を生かしたボランティア活動へと発展している。従来の専門家（保健婦）による組織化から、素人による組織化に変化している点が興味深い。育児中の母親にとってもっとも身近な資源であると同時に、今後の子育て支援のあり方を示唆している。

3. 行政の課題

1) 育児サポーターの養成・支援

従来の子育て支援策に加えて、今回聞き取り調査を行ったI県やS県K市で実施している育児サポーターの普及が考えられる。I県では、登録した育児経験者による活動で、育児教室や育児グループの支援活動を行っている。ただし、登録者は保育士などが多い[5]。S県K市では、育児経験者によるボランティアグループで、相談や育児グループ支援、広報活動を行っている。

ちなみに英国では、NCT（National Child Trust）という妊娠、出産、早期親子関係に関する情報とサポートのための全国組織があり、①両親の交流事業、②母乳育児の奨励や禁煙運動などのキャンペーン事業、③母親教室の開催、④研修、⑤情報提供、⑥調査研究などを400の支部単位で実施している[6]。

行政は、母親たちの参加を得ながらサポーター養成プログラムや育児グループ運営マニュアルなどを開発し、研修や情報を提供していくことは容易であろう。

2) 情報提供方法の見直し

「行政サービスは意地になって利用しなかった」というケースがあったが、理由は不明である。先に述べたS県の育児ネットワークが実施した会員対象に実施したアンケートによると、厚生省のポスター「育児をしない男を父とは呼ばない」を知っているものは93.5%で、「厚生省に拍手」としつつ、一方で「国や世の中が子育てを応援していると実感できない」が77.8%という結果が出ている[7]。この数字が示すものは、サービス不足ではなく、むしろアカウンタビリティの方法論の問題と思われる[8]。従来的な一方交通的な情報提供のあり方が問われてい

るいえよう。むしろ、子育てグループあての情報提供など、対面関係を重視した方法を検討すべきであろう。

3)初期対応システムの確立

新生児訪問事業は、孤独な母親への情報提供者として有効である。しかし、世代ギャップを感じた母親は、自らの判断によって、その後の援助を止めている。より有効な子育て支援事業を目指すならば、訪問者の研修や訪問指針などについての再検討が必要であろう。行政サービスの初期接触者とのギャップは、そのまま行政評価につながり、後のサービスに影響を与える。

地域の中での初期対応の重要性は、新生児訪問事業だけではない。母子保健推進員、児童委員など制度化された事業もあるし、愛育班などの住民組織活動もある。子育て環境や社会環境が大きく変化している現在、これらの住民組織が、果たしてどの程度機能しているかの再検討も必要である。

まとめ

1. 夫の育児参加の促進（特に、職場環境・職場体質改善のための雇用者への啓発）
2. 子育てグループの支援（作り方、運営の仕方、紹介など）。
3. 子育てグループのネットワーク化（市町村単位、県単位など）
4. 子育て経験者による育児サポーターの養成・支援（サポーターの年齢は、育児中の母親と、年齢のひらきが少ないこと）。
5. 公的サービスの情報提供方法の見直し（子育てグループや住民組織の利点である、対面関係を活用する）。
6. 病産院を含め、新生児訪問や住民組織などの初期対応システムの再検討。

（小山　修・斉藤 進・加藤忠明）

参考文献

1) 島内憲夫．家族ストレスに対する保健的介入．石原邦雄編．家族生活とストレス．p276-301，垣内出版．1985
2) 平成9年度厚生省心身障害研究「少子化についての専門的研究」報告書（主任研究者平山宗弘）．1998
3) 山岡テイ監修．子育て生活基本調査報告書．ベネッセ．1998
4) 平山宗宏・小山修．地域活動事業．厚生省児童家庭局母子保健課監修・母子保健マニュアル作成委員会編．母子保健マニュアル．p240-249，1996
5) いしかわ子育て財団．子育て便利帳．1999
6) 小山修．イギリスにおける地域母子保健と住民参加―妊娠・出産・育児に関わる住民組織の役割―．平成7年度家庭・出生問題総合調査研究推進事業報告書．p39-64，日本総合愛育研究所．1995
7) 埼玉県子育てネットワーク．3801人の子育て「実感」アンケート報告．埼玉県子育てネットワークフェスタ資料．2000
8) 山上信一．「行政評価」の時代．NTT出版．1998

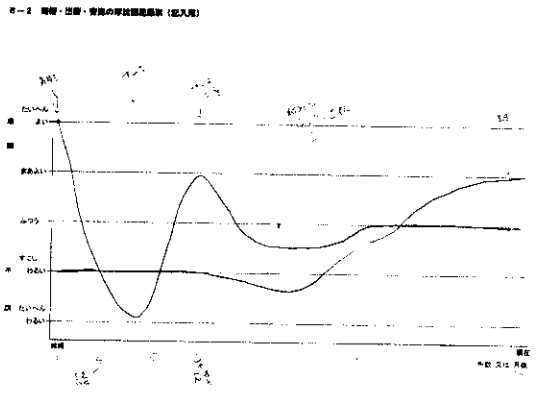

図 1　ケース 1 の感情浮沈図

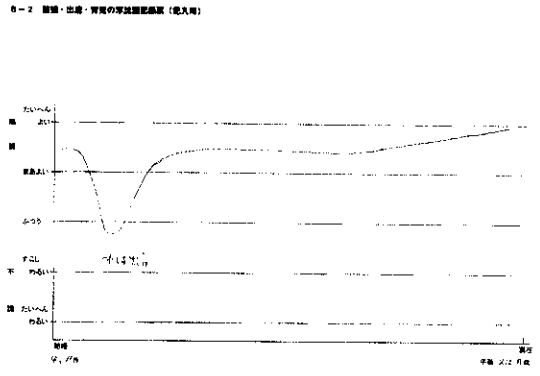

図 2　ケース 2 の感情浮沈図

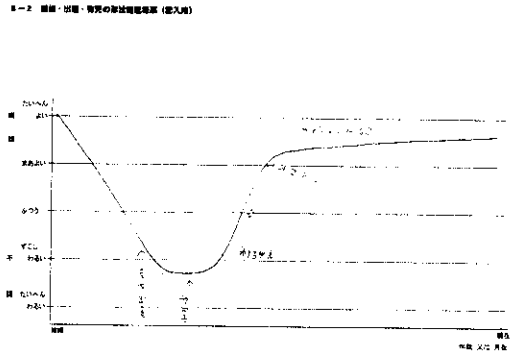

図 3　ケース 3 の感情浮沈図

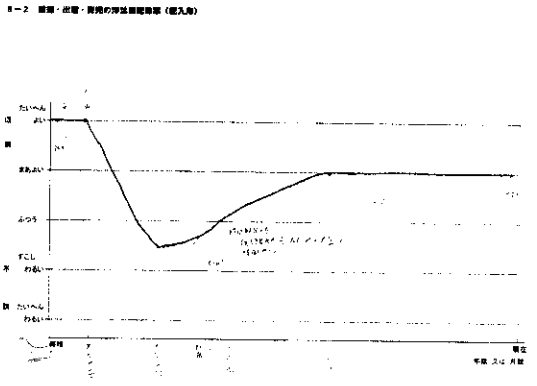

図 4　ケース 4 の感情浮沈図

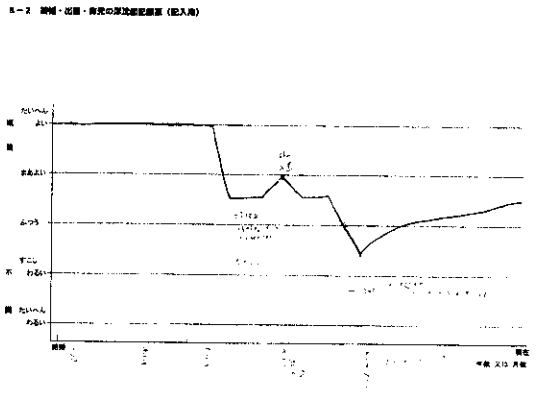

図 5　ケース 5 の感情浮沈図

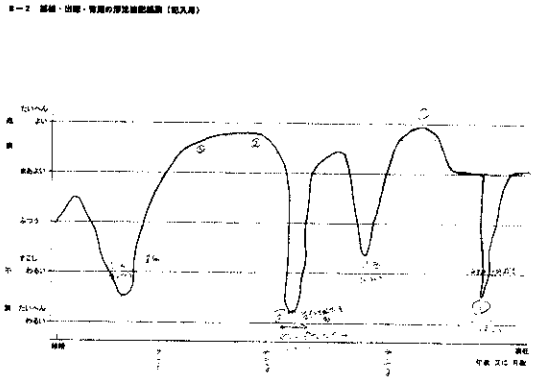

図 6　ケース 6 の感情浮沈図

C-5 システム・ダイナミックスによる、社会環境が結婚・出産・育児に及ぼす影響予測モデルの検討

研究目的

①従来の研究方法の限界性の確認

少子化に関する政策科学的研究の手法には、保育園などの施設やそこへ通う子どもや、親へのアンケートや面接などの調査データの分析や、官公庁が定期的に発表する社会経済指標の２次資料の分析が適用されてきた。しかし、少子化問題を政策的に検討するには「人口の予測」を分析の基軸とする必要があり、その上で、関連する社会経済および心理的要因を探るのでなければ、政策に適用するのが困難である。

②シュミレーションソフトの適用可能性

そこで、中長期の人口予測と、人口の増減に関連し、政策的に介入できる変数の発見、およびその介入程度を定量的に把握する方法として、システム・ダイナミックス（以下、SD）による数理的シミュレーションに着目した。それを既存の統計学的な分析方法の特性と比較し、SD による予測が、実態調査に根拠を置くために必要な活用方法を検討する。

③自治体が独自に政策立案を図る方向付け

SD が、地方自治体の政策立案に有効かどうかを検討する。

研究方法

本テーマを主題とする研究会を組織し、政策科学研究における解析方法の比較を行った。特に、今後の少子化研究に活用可能な SD 用モデル開発及び妥当性、並びに課題について検討した。

1）政策科学の研究に用いられる研究手法の比較

政策科学の研究に用いられてきた研究手法を、解析方法の面から比較し、それぞれの特徴と限界を明らかにする。解析方法は、相関分析、因子分析、重回帰分析、時系列分析、共分散構造分析および数理的シミュレーションとしてシステム・ダイナミクスの６手法を取りあげた。

2）ＳＤモデルの開発と運用上の課題

少子化の問題にとって、子どもを産む可能性あるある世代の人口の地域間移動は、人口動態を大きく左右する。そこで、１例として、地域間の移動（都市部から地方へ）を想定し生産年齢人口のＵターンのモデルを作成した。また、社会経済環境、特にエンゼルプランなど、出産と育児に関係する環境も、同様に、人口動態を大きく左右する。そこで、出産や育児の環境が、実際の出産率にどのように影響するかを検討するモデルを作成した。

なお、実際のシミュレーションでは、モデルを作成後、ある年次のデータを初期値として入力し、変数間の関係方程式、係数の値を決定して、はじめて予測が可能となる。また、介入可能な政策変数の操作で、他の変数がどう変化するかなどの感度分析も可能である。今回の報告では、従来の研究手法との比較を目的とするため、シミュレーションに関しては、別に報告する。

ＳＤの運用上の課題は、モデルの妥当性、データの妥当性、カオス的特性、確率論モデル的性格の導入などの予測研究にかかわる諸課題を検討した。

結果および考察

1 政策科学研究に用いられる研究手法の比較

表１にデータ解析方法についての比較を示す。相関係数の分析では、２変数のどちらの変数が要因かわからないこと。重回帰分析は、線形性を前提とする仮定が常に妥当かどうかわからないこと。因子分析は、因子が発見されても、従属変数（目的変数）が無いため政策に利用しにくく、あくまで一連の分析のための中間生成物であること。

共分散構造分析は、重回帰分析と因子分析を内包しており、さらにモデル化を自由にできることから、近年注目されている。しかし、この分析で明らかにされるパスの係数は、ケースレベルの横

断的なデータが持つ変数間のばらつきの偏回帰係数であって、「ある政策変数が１単位増加すれば、他の変数がどれだけ変化するか」といった感度分析的な値ではないことに注意を要する。ただし、観測や測定ができない構成概念を変数として扱える点で、社会経済指標にはなかった政策変数を定立するのには有益であろう。

時系列解析は、交差相関分析や多変量時系列解析、時系列の重回帰分析では、ある変数を別の変数の要因とみなしたモデルを検定することはできる。横断的なデータのように、集団内の変数のばらつきではなく、変化量と変化量の関連を分析している点で、横断的データに対して適用してきた従来の解析手法とは大きくことなる。このことが、経済政策などで時系列分析が多用されている要因であろう。しかし、時系列分析は、過去の変化の分析には優れていても、将来の予測に関しては、将来になればなるほど、信頼区間が非常に広がり、予測値も過去のデータの平均値に近づく。そのため、現実的には、数年先の予測値までしか使えない。

ＳＤは、ローマクラブの『成長の限界』のレポートで用いられたことが有名で、わが国でも、1970 年代から、オペレーションズ・リサーチの分野における都市政策の研究で用いられてきた[1]。今回、われわれが使用したソフトウエア[2]も、人口予測を含むいくつかの研究で活用されてきた実績がある[3-4]。この考え方の基礎には、経済学において用いられてきた「ストック」と「フロー」の概念で物事の動態を把握する理論がある。ストックとは、ｔ時から（ｔ+⊿）時の間に、出入りがあった結果、ある時点にその状態で残っている量の総和であり、フローとは、⊿ｔの間に、ストックに入った、あるいはストックから出た量を意味する。ＳＤは、ストックに初期値を与え、関連するストックやフローの間の関係を、時間ｔを含む方程式で結ぶことで、任意のｔの時点でのストックやフローの値を予測する数学的な解析方法（連立定差方程式）である。

人口問題は、現在は子どもでも、将来は成長して結婚し、出産によって新たな人口を再生産する要因でもある。それゆれ、静態的な人口を時系列でつないだ曲線を外挿する予測ではなく、子どもを産む親世代になることを想定した動態的モデルによる予測の方が精度が高い。ＳＤは、時間軸での動態を、定量的に予測できるため、人口予測にとってはこの点においても有望な手法と考えられる。これまでは、自治体にとって将来の命運を握る少子化対策であっても、統計情報と政策研究が国家レベルに集約され、各自治体においては、漠然とした不安に基づき、数字的な見とおしが立てられないまま対策を打つばかりであった。しかし、政策科学に SD を用いることで、自治体レベルのデータを持いて、独自に予測および対策のための政策が立案可能になる。

ただし、ＳＤは、決定論的に値を決めるので、集団内のばらつきについては従来の解析手法のように、信頼区間もなければ、統計学的検定も行えない。そのため、予測の誤差についての評価が困難である。予測の精度を上げるには、モデルに使用する諸変数間をつなぐ関係式の係数を求める際に、従来の統計学的手法による結果を用いるなどが必要である。

２　ＳＤ用のモデルの構築

図１に、地域間の移動（都市部から地方へ）を想定したモデルを示す。子どもを産み育てる世代は産業での生産年齢人口であり、そのためには、労働需要を創出する必要がある。このモデルに感度分析を施すことで、例えば、ある地域での「企業の労働需要」を何%増加することで、「生産年齢人口」や「出生数」が何%増加するか、といった定量的な感度分析が可能である。図２に、社会経済環境、特にエンゼルプランなど、出産と育児に関係する構成概念が、実際の出産率にどのように影響するかを検討するモデルを示す。

出産や育児の環境といった変数は、保育所の数など、より政策的に操作できやすい変数ではないが、国民にとっては数そのものよりも、それらの